

# 東松島市医師団リレートーク 第15回

～医療現場のドクターからのメッセージ～



今回の医師団トークリレーは、医療法人医徳会 眞壁秀幸理事長にお話しいただきました。眞壁病院における総合診療医(家庭医)として、診療方針を問診で引き出すべく患者さんと向き合う姿勢や、かつては統括DMAT(災害派遣診療チーム)として活躍した経験を活かし、現在でも岩手県でドクターヘリに乗り込むなど、興味深く多彩な内容となりました。



眞壁病院

## 眞壁秀幸理事長

■診療科 内科、外科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、心臓血管外科、整形外科、小児科、放射線科、人工透析内科、リハビリテーション科、血液内科、泌尿器科

| 受付時間        | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 8:30～11:30  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 14:00～16:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

休診日 日、祝



東松島市矢本字荒石前109-4



### 眞壁先生からの健康基礎クイズ

(○×で解答)

- 1.ドクターヘリへの出動要請はだれでもできる。
- 2.医療機関を受診する際には、必ずお薬手帳を持参した方がよい。
- 3.西部地域包括支援センターへの介護などの相談は、市民であれば誰でも出来る。

正解者には抽選で「ゆびと利用券3枚セット」を3人の方にプレゼントします。応募方法については真壁受付欄を参照いただき「健康基礎クイズプレゼント係」と明記ください。

※健康基礎クイズには株式会社コスモスポーツ様から協賛をいただいています。今後も健康に関する重要情報をクイズ方式で出題し、知識の定着を目指します。また、協賛企業の募集は随時行っていますので、問い合わせは下記までお願いします。

#### 眞壁先生からの健康基礎クイズの正解は

- 1.こけらの地域医療には、高齢による認知症などの増加が予想される。→○
- 2.認知症は脳の病気で、人格が変わることもある。→○
- 3.認知症は完治しない「脳の病気」なので、ご家族、ご近所、地域全体がこの病気を理解する枠組みが必要だ。→○

正解者の中から、安部慶子さん(矢本)、三浦實志さん(赤井)、山内興成さん(赤井)の3人におゆびと利用券3枚セットを贈呈してプレゼントします。

#### 【質問受付欄】

本コーナーでは、皆さんの知りたい医療に関する情報を募集します。例えば、血圧が高いと健康によくない理由を教えてくださいなど、関心のある分野で結構です。いただいた質問は、専門の先生が登場する際に紙面に紹介し、回答します。「健康基礎クイズ」の答えと先生への質問を記入のうえ、はがき、ファックス、電子メールにて下記までお願いします。

■住所 東松島市矢本字上戸戸36-1  
東松島市保健福祉部健康推進課宛  
☎0225-82-1244  
✉kenko@city.higashimatsushima.miyagi.jp

■問 健康推進課健康支援班 ☎内線3101

#### ■開業から39年

当院(医療法人医徳会)は、昭和54年9月に内科医院として開業しました。初代である父は、「地元完結型の良質な医療の提供を常に目指し、病院は患者さんと地域に住み暮らす住民の為にという強い信念に基づいた医療を行ってきました。昼夜を問わず患者さんと向き合ううち、気が付けば13に及ぶ診療科、常勤医10人、従業員430人を超える大所帯へと成長していました。これも支えてくれる優秀なスタッフ、これまでご支援頂いた皆さまや、当院の方針を理解して下さる患者さんのおかげだと感謝しています。

#### ■救命救急医から家庭医へ

以前は東北唯一であった高度救命救急センターで救命救急医をしていた私は、新潟中越地震以降、災害医療のスペシャリスト(統括DMAT)として方々の被災地に赴いてきました。

しかし3・11では、岩手県北を統括していたため、最大の被災地である地元(東

松島市)に入ることができず、とても辛い経験をしませんでした。

そのため同年の4月には大学に辞意を伝え、消化器内科医である妻と共に10月に東松島市へ戻りました。得意分野で父を助けたいと考えていましたが、8月に父が病で倒れたため、結局一緒に仕事をするのができなかつたのは心残りです。

#### ■問診ですか?

父の患者さんを引き継いで分かったことは、父はどんな患者さんも総合診療的に診ていたということでした。ですから、当然私も総合診療医として診療しなければならなくなりました。

当院の患者さんは、震災以前にも増して、心身両面を考慮した診療を要する方も多く、コミュニケーションが深まって初めて本当の意味で治療が始まると考えています。ですが中には詳しく聴き過ぎて「尋問ですか?」と反問される方もいます。(苦笑)。

また、初診の際は、これまで

での病気や生活のことを詳しく聞かせてもらいますので、お薬手帳の携行は重要です。他院で処方されている薬が正確に把握できることが治療の手がかりになりますから、ぜひお持ちください。

#### ■7年目で判る事実も

患者さんの中には数年のお付き合い(診療)を経てやっとなを聞かれる方もいらっしゃいます。毎年一度は初診時と同じ様な質問をするのですが、全然違う答えなので「前と違ううね?」と聞くと、照れくさそうに「んだって前は言い難れがったんだおん」と、やっとなを打ち明けはじめたり(笑)。

じっくり何度も話を聴き続けることで患者さんの抱えている過去や病気の背景、生活習慣、心配事など、診断・治療の決め手が見えてきます。ですから、可能な限り問診に時間をかけるよう心がけています。

#### ■西部地域包括支援センター

当法人ではこの4月から旧鳴瀬町、矢本西小・大塩

小学校区の市民の方を対象に、介護予防や日々の暮らしをサポートに関する相談窓口を「西部地域包括支援センター」として新たに開設しました。現在は引き続きが終わったところで、まさにこれから本格的な活動に入ります。担当区域にお住まいの方はお気軽にお問い合わせください。

#### ■ドクターヘリ

フライトドクターとして現在ではやっとな宮城県でも導入されたドクターヘリですが、私はその必要性をずっと唱え続けていました。

以前働いていた岩手県では、交通事故で瀕死の重傷を負った方が、搬送途中で亡くなることしばしばありました。広い県土と複雑な地形を背景に救急車搬送だと2時間以上かかる場合もあったからです。

ヘリであれば、ほぼ30分以内現場へ急行でき、できる限り早く治療を始めることで、搬送可能な状態まで安定化できる確率が飛躍的に上がります。

しかしやっとな岩手県で導入が決まったときには、言い出さずの私が岩手県を去ることになっていました。ですから医師として育てて頂いた岩手県に恩返しの意味を込め、月に一度、フライトドクターとして飛んでいます。ちなみにドクターヘリは消防機関のみに出動要請が許されており、一般の方は救急車のように呼ぶことはできません。

#### ■病院は患者と地域のために

当市には公的医療機関がありません。ですから、当法人は「病院は患者と地域のために」という理念に基づき、救急指定病院として24時間の診療対応をはじめ、人間ドックを含む健診、学校医や園医などの学校保健、いきいき健康講座など地域への健康教育、自衛隊委託医師、警察医として死因究明・犯罪捜査協力など公的機関への医療協力を行っています。

医療・介護・福祉という側面から、東松島の暮らしの安心を守る要として、これからも皆さんと共に歩んで参りたいと思っています。